

クリスマスに おすすめ の作品!

みなさんはアドヴェントをどのようにお過ごしですか。
今回は幼稚園から大学の方々に、
おすすめの絵本・書籍・音楽を紹介していただきました。
ぜひ手に取ってみてください。きっと心が豊かになることでしょう。

絵本

幼稚園教諭
河瀬 ゆり子



『たどりつくまで
ロバと三人の旅』
アン・ブース(文)
サム・アッシャー(絵)
真下 弥生(訳)
新教出版社

「たどりつくまで」ロバと三人の旅、この絵本は「男の人」「女の人」そして「赤ちゃん」の旅の道行きが、ロバの目線で語られています。男の人はヨセフ、女の人はマリアですが、その名前は出てきません。でもかえってそのことが、この世のただなかで起こったというリアリティーを感じさせてくれます。そして暗い夜に、不安や恐れ、悲しみの中にありつつも、出会った方々の思いやりや優しさに触れながら三人とロバはエジプトへと向かうのです。赤ちゃんの見せたはじめての笑顔に希望の種を見出して。最後にはほっとできる場所にたどりつくことができました。どうか私たち1人ひとりの人生の旅路が祝されますように。悲しみのあるところに慰めがありますように。2023年のクリスマス、救い主イエスさまのお生まれをみんなでお祝いしましょう。

「1ドル87セント。これで全部だ。(中略)デラは3度数えた。
1ドルと87セント。明日はクリスマスなのに。」

オー・ヘンリーの書いた「賢者の贈り物」という有名な短編の書き出しの一節です。

この話に出てくるデラや夫のジムには華やかな贈り物を買うお金がありません。そこで、相手にプレゼントを買うために、自分の大事なものを売ってしまうのですが…

クリスマスにプレゼントを贈る現在の習慣は、東方の三賢者が主イエスのご誕生に際して贈り物を用意したことに因んでいるとも言われています。私達を愛するゆえに神様がひとり子をこの世に送って下さったクリスマス。そんなクリスマスにプレゼントを贈る時、どんなことを大事にするべきなのか、考えさせられるお話です。

書籍

初等部教諭
田中 翔



『賢者の贈り物』
オー・ヘンリー(著)
越前敏弥(訳)
角川文庫

Christmas
Song

中等部教諭
ライト 兼



“Jingle Bells”

“Jingle Bells” is one of the most well-known and enduring Christmas songs, written by James Lord Pierpont. It was originally published under the title “One Horse Open Sleigh” in 1857. Interestingly, the song was not originally intended to be a Christmas song but became associated with the holiday due to its lyrics and the jingling sleigh bells mentioned in the song. The lyrics of “Jingle Bells” describe the joy of riding in a sleigh through the snow, the thrill of dashing through the snow, and the sound of the jingling bells on the horse’s harness. The song is typically upbeat and often encourages people to join in and sing along. “Jingle Bells” is one of the most frequently performed and recorded Christmas songs in the world.

“Jingle Bells” is a classic and beloved Christmas song that has been a part of holiday celebrations for many years. It’s known for its catchy melody and cheerful lyrics, making it a favorite for people of all ages during the holiday season. Many people enjoy singing along to “Jingle Bells” and using it as part of their holiday traditions. It’s a fun and iconic Christmas song that brings a sense of nostalgia and happiness during the holiday season.

時代は明治末。鉄道職員永野信夫はキリスト者として愛と信仰に生きる人物だった。愛するふじ子との結納の当日、彼が乗る札幌行きの列車が旭川の塩狩峠の頂上にさしかかった時に客車が離れ、坂道を暴走し始めた。絶体絶命の状況で彼は線路に身を投げて列車を止め、自らの命を犠牲にして大勢の乗客の命を救った。乗客たちは血にまみれた彼の姿にとりすがって泣いた。混迷する人間社会は坂道を暴走する列車のようにもみえる。根底にあるのは闇のように深い人間の罪。その罪の世界に根本解決をもたらすために、神は一人子をお与えくださった。暗闇の世界に「すべての人を照らすまことの光」をお与えくださった。神の一人子はこの世でいかに生き、いかに死なれたか、神の一人子が私たちの救いのために世に来てくださったことがどれほど大きなことか考えたい。

書籍

高等部教諭
小林 和夫



『塩狩峠』
三浦綾子 (著)
新潮文庫



理工学部准教授
井口 幹夫



Steve Sacks
“Christmas Presence”

ジャズを聴くことは健康にいい。そんなテーマで理工学部の学生は英語のプレゼンテーションを時折してくれます。その通りだと思います。

私も日々インストゥルメンタルのジャズやボサノヴァをBGMにして仕事をしています。ご紹介したいのはニューヨーク出身で日本在住のサクソ奏者スティーブ・サクソ氏によるコンテンポラリー・ジャズのアルバム“Christmas Presence”です。イエス・キリストの presence (存在) = present (贈り物) というテーマで、1曲目は小気味よいテンポのジャズにアレンジされた定番の「Silent Night きよしこの夜」から始まります。

特におすすめしたいのは2曲目の「Go, Tell It on the Mountain! 山上より告げよ」です。日本ではあまり馴染みがないかもしれませんが、海外ではよく知られた曲です。

旅行でドイツのノイシュヴァンシュタイン城を訪れた晩秋に、青年達が街角で英語で歌っていたのがこの曲でした。行き先があったものの、思わず立ち止まって曲の終わりまで聴き、「その曲知っているよ」と英語で話しかけてから会話が弾むきっかけを作ってくれた曲です。アップテンポで気分が意気揚々となります。

課題、テスト、仕事で何かと忙しい年末、ジャズとクリスマス・ソングのどちらとも思うならば、BGMとしていかがでしょうか？

町ではクリスマスの装飾も増え、クリスマスが近づいたことを感じます。この時期だからこそキリスト教について、聖書について知る機会にしてもらえたらいいなと思いこの本を紹介させていただきます。

この本は聖書に出てくる女性を中心に解説された本です。全部で約110ページでとても読みやすいと思います。クリスマスに関連ない解説も多くありますがマリアの解説ページにはクリスマスについての簡潔な解説もあり、クリスマスの背景について知ることができます。クリスマスの時期、礼拝などでイエス様の誕生のお話を聞く機会が多いと思いますが、この本で背景を知っているとよりクリスマスのお話が分かりやすくなるのではないかなと思います。

聖書は難しいと思っている方にも短いからこそ手に取って読んでみてもらえたら嬉しいです。

書籍

社会情報学部
社会情報学科4年
吉田 愛実



「イエス・キリストの系図を彩る女性たち」
平山澄江
キリスト新聞社